



NEWS

2008 No.211

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

10月号

環境に優しい「リトレッドタイヤ」

資源高での製品値上げを背景に トラック・バス用で再浮上 乗用車ではスタッドレスで有望か



「リトレッドタイヤ」が注目されています。

リトレッドの「リ」は、リユース、リサイクルの「リ」と同じ意味で、使用済タイヤの再利用を意味します。

日本でも今後、需要は高まることになるのでしょうか、注目される動きです。

リトレッドタイヤは、日本では「更生タイヤ」「再生タイヤ」などと呼ばれてきました。磨り減ったトレッドを張替え、新品にするものです。ラジアルタイヤが一般的になってから加工が難しくなり、乗用車用タイヤではほとんど使われなくなりました。現在、主に大型トラック・バス用、しかも後輪用タイヤの分野でリトレッドタイヤが使われています。

国内の市場規模は、トラック・バス用タイヤの2割程度、市販タイヤ全体の3%程度とされています。この市場に今年7月にブリヂストンが新たな取り組みを始めることを発表しました。同社は昨年、リトレッドの分野で高い技術を持つ米国のバンダク社を買収しました。この技術を元に日本市場でもリトレッドを本格展開することにしたものです。トラック・バス用タイヤでシェアアップを図るための戦略の一環とみられ、リトレッドタイヤを専用に売るのはなく、新品タイヤとリトレッドをパッケージ化し、「エコバリューパック」と呼ぶサービスで大手輸送会社をターゲットに販売しています。

リトレッドタイヤは環境に優しく、政府のグリーン購入の対象にもなっています。生産事業者の団体、更生タイヤ全国協議会によると、大型トラック用タイヤの場合、新品タイヤを購入し、使用後に1回リトレッドして再利用すると、新品タイヤを2回使用するのでは、製造に関わる石油の消費をリトレッドの方が68%も低減できると言います。また、製造から廃棄の過程で約41%CO₂排出を削減できるそうです。



大型トラックの後輪タイヤをよく見ると、リトレッドタイヤがよく使われている。単価が高いタイヤ再利用は経済的で、環境にもやさしい

石油の消費が少ないということは、コストを低減し、大手運輸業者にとって維持費の低減を意味します。国内のタイヤ販売価格は、原材料価格の値上がりを理由に04年から断続的に上昇しています。今年は春先に5.5～10%引き上げられたのに続き、9月1日から各社一斉に5～10%アップと、2度の価格改定が行われました。このように価格が上昇してくると、単価の高い大型車用タイヤでは、リトレッドの魅力は高まるようです。

ただし、タイヤメーカー各社は、トラック・バス用でも前輪や最後輪で使わないように求めていますし、用途としては限られることとなります。さらに残念なことに乗用車用タイヤのリトレッドも推奨していません。また、乗用車タイヤは1本の単価が低い

ため、リトレッドしてもコスト的な魅力が生まれませんし、一般ユーザーでは、走行距離の割に平均使用年数が長くなり、更生するにはタイヤが経年劣化し、リトレッドに適合しないケースが多いようです。これが、リトレッドの販売実績になっており、乗用車タイヤでの利用は微々たるものです。

ただ「リトレッド」という言葉が宣伝されるようになったことで、タイヤの「リユース」「リサイクル」への関心が高まることは確かです。タイヤのグリップ力は燃費にも関連します。資源のことを考えて、乗用車ユーザーにも5年以内でリトレッドして再利用するという風潮がでてくれば、タイヤの省資源、リユースも本物になってくると言えるのかもしれない。

自動車リサイクル法の見直し始まる

解体業・破砕業のヒヤリングは11月4日 引取業は12月25日



9月8日に東京・三田共用会議所講堂で開かれた第13回合同会議。見直しの本格審議がスタートした

産業構造審議会、中央環境審議会の自動車リサイクルに関わる合同会議で、自動車リサイクル法を見直すための審議が始まりました。使用済自動車のリサイクルシステムは、「概ね順調」と言われていますが、詳細な検証を行うため、自動車リサイクル法の義務者・関連事業者に対するヒヤリングを実施します。9月8日に開かれた第13回合同会議でヒヤリングの日程が示され、解体業・破砕業は2回目の11月4日、引取業関係は4回目として12月25日に行われることになりました。

これまでの合同会議の審議で、経済産業省・環境省は、①使用済自動車全体のリサイクル率が約95%まで向上②産業廃棄物の最終処分場の残余年数も増加傾向に転じ、ひっ迫状況が緩和③不法投棄車両は08年3月末で2万2千台の大幅減一など、日本の自動車リサイクルが円滑に動いている現状を報告しています。

一方、審議会委員からは、資源価格の高騰が自動車リサイクルを順調に動かしているといった指摘や、中古車輸出が増加していることでグローバル経済と結び付けて日本の自動車リサイクルを見直すべきだなどと

た意見が出されています。また、法の制定までの過程で、自動車リサイクルを地球温暖化の問題と関連づけて審議する場面がなかったため、CO₂排出削減の観点から見直すことも必要などとした発言もありました。

こうした論議を踏まえて合同会議は、引取業、解体業、破砕業、そして自動車メーカーやフロン・シュレッターダストの処理業者などの関連事業者に対してヒヤリングを行います。義務者それぞれが法令上の義務を果たしているか、リサイクル部品の利用拡大をはじめとした3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進状況などが聞かれることになっています。

産構審・中環審合同会議によるヒヤリングスケジュール

第1回	10月22日(水)	フロン、エアバッグ、シュレッターダストの再資源化に関わる施設の設置者
第2回	11月4日(火)	(引取業・破砕業) 日本ELVリサイクル機構 日本鉄リサイクル工業会
第3回	12月9日(火)	(自動車製造業者) 日本自動車工業会/日本自動車輸入組合
第4回	12月25日(木)	(引取業) 日本自動車販売協会連合会/日本中古自動車販売協会連合会 全国軽自動車協会連合会/日本自動車整備振興会連合会
第5回	未定	都道府県/市町村

釧路オートリサイクル

フルラッピングバスで「くるマック釧路西店」をPR

釧路オートリサイクル（北海道釧路市）は、車両全体を緑と黄色の「くるマック」カラーで塗装したフルラッピングバスを仕立てて、「くるマック釧路西店」のPRに取り組み始めました。ボディ側面と後方に、ロゴとキャラクターを配置し、くるマック釧路西店のフリーダイヤルとともに、「廃車・不要車買取り」「全国ネットの安心サービス」を訴えています。

バスは、釧路市内を中心に路線バスを走らせる「くしろバス」が運行しています。走行路線は決まっていますが、毎日必ず市内のどこかの路線の運行に就く契約となっています。



北の大地に「くるマック」バス走る

ます。同社はこれまででも新聞やタウン誌の広告で「くるマック釧路西店」を宣伝してきましたが、フルラッピングバスは目立つカラーでお客様の目を引くようで、問い合わせ件数や引取台数も増えているそうです。

愛知県メンバー、集中豪雨被害で支援活動

NGP協同組合の愛知県内10社が、地元の集中豪雨被害で立ち上がり、水没車の回収支援を行いました。愛知県内では8月末集中豪雨で、岡崎市などを中心に大きな被害が出ました。愛知県内のメンバーは被害発生翌日の8月29日に豊田市の佐竹自動車部品を対策事務局として態勢を組み、損保、共済併せて550台の水没車を回収、支援しました。



緊急ヤードに回収された水没車

NGP 今月のCO₂削減量

NGP平成20年8月: 6,456,552kg (全12団体計: 11,689,433kg)
1月からの累計: 56,245,265kg (全12団体計: 105,445,796kg)

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



NGP協同組合各委員長に聞く 第8回 津田隆二システム委員長

組合員のニーズに応えるために昼夜続けるシステム改善努力 NGPダイレクトを一新、海外ダイレクトも提供開始 NGPホームページのリニューアルも構想中

システム委員会は前期、NGPダイレクトシステムのバージョンアップを図り、海外ダイレクトを新たに加えるなど、機能を充実しました。

組合員の要求に答え、各社がNGPパーツシステムをより便利に、さらに戦略的に使えるよう改善努力を続けています。

機能を十分使いこなしてもらうため、組合員向けのサポート支援もきめ細かく実施しています。

—システム委員会の今期計画を教えてください

「NGP協同組合員の皆さんが道具として使っているNGPシステムを使いやすく、より便利なものへと改善し、組合員各社の利益に貢献することが委員会の使命です。この間、検索しやすくするなどのフロント側のシステム改善に取り組んできました。今期は生産の立場に立って、登録しやすいシステムを作ろうと考えています。NGPシステムの改善で部品登録時に画像添付という作業が増えていくことが懸念されます

ので、今後この作業負担を軽減する方法を考えていきます」

—画像添付のメリットはどこにありますか

「画像があれば、部品の状態がどうなっているかが一目で分かりやすくなります。修理工場、部品販売会社に使っていただいているNGPダイレクトなども画像を入れたことで便利になりました。安心感も高まりますし、売上が伸びるものと期待しています。また将来、一般ユーザーの方にNGPの共有在庫を直接ご購入いただくような仕組みづくりも必要になると思われます。そのときも画像添付は不可欠です」

—写真撮影は初めてだと難しいのでは

「商品管理委員会といっしょに指導したいと考えています。組合員の皆様には、まずは形状がはっきり分かればよいので、生産の流れの中で写真を撮る努力をお願いしたいです。私の会社ではホームページで、部品の写真を掲載しています。写真撮影の細かいノウハウなどを必要に応じて提供したいと思っています」

—生産システムの後ほ

「営業支援システムを考えています。営業マンを抱える組合員が増え、その管理が課題になっています。営業マンも日報作成など負担となる業務も多く、仕入れの競争が厳しくなる中で、そうした負担を軽減し、戦略的な取り組みができる営業支援ツールを考えたいと思っています。さらにNGPのホームページについても各委員会にアイデアを出してもらい、一般ユーザーに関心を持ってもらえるようなリニューアルを行いたいと思います」



津田 隆二 (つだ・りゅうじ)
1965年生まれ 魚座 O型 趣味・クルマいじり

2008年CSRレポートまとまる

着実に拡大するNGP組合員による使用済自動車処理台数 エネルギー消費等の環境負荷基礎データの調査も開始

NGP協同組合の使用済自動車再資源化実績

●使用済自動車処理台数	69万0515台	11.8%増
●フロンガス回収処理量	18万5350kg	16.1%増
●廃オイル回収処理量	406万4497ℓ	9.3%増
●LLC回収処理量	188万8150ℓ	22.6%増
◆廃タイヤ処理数	272万3870本	24.6%増
◆エアバッグ展開・回収処理数	48万4704個	51.3%増
◆廃バッテリー回収処理量	689万3524kg	19.4%増

NGP協同組合は、07年9月から08年8月までに取り組んだ使用済自動車の適正処理実績などを「2008年CSRレポート(環境報告書)」としてまとめました。期間中NGPが適正処理した使用済自動車の台数は、前年比11.8%増の69万5百台となりました。使用済自動車の処理台数は毎年着実に増えており、現在、使用済自動車の全

国発生量の2割弱をNGP協同組合が処理していることとなります。これらの適正処理の取り組みの実績をまとめたのが「2008年CSRレポート」です。10月27日に東京・品川で開催するNGP日本自動車リサイクル事業協同組合総会で公表します。

今回のCSRレポートには、各組合員の電力消費量や水道利用量、軽油・ガソリン・LPG・重油のエネルギー消費など、事業活動における環境負荷データ6項目を取りまとめて盛り込んでいます。リサイクル部品のCO₂排出削減効果をさらに高めるため、生産・販売での環境負荷を明確にし、負荷低減のための基礎データとして利用することが目的です。公表してきたフロン、廃オイル、LLCの処理量、さ

らに廃タイヤ、エアバッグ、廃バッテリーの処理量とともに積極的な情報開示を行うことが、自動車リサイクルに対するNGP協同組合の社会貢献だと考えています。

ちなみに組合員による同期間中のリサイクル部品販売金額は361億円(前期比0.8%増)、またリサイクル部品の生産金額は121億円(同3.4%増)となりました。リサイクル部品の生産面では中古車輸出拡大、販売面では修理需要の低迷という厳しい環境の中で、わずかではありますが、少しずつ積み上げた努力の成果が出ています。自動車リサイクル部品の使用拡大は、温暖化防止に貢献できるということをNGP協同組合は確信しています。使用済自動車の適正処理とリサイクル部品の生産・販売の努力を続け、環境負荷の少ないクルマ社会の実現を目指して行きたいと考えています。

第21回経営者研修会実施

“本当”の合格は決意表明の目標達成で NGP協同組合の一員としての自覚を促す

新規組合員のオーナー、次期オーナーを対象とした第21回経営者研修会が9月9～12日、東京・夢の島のBumB東京スポーツ文化館で開催されました。研修会には全国から14名が参加し、財務・企業のコンプライ



基本訓練の試験。助け合い全員合格することで、NGPの基礎となる一体感が生まれる

アンス、さらには事業計画の策定などに取り組み、NGP協同組合の一員としての自覚と経営

者としての理念を学びました。

初日に大橋岳彦理事長の講話がありました。大橋理事長は「経営環境は厳しいけれど、努力をすれば必ず実現できる。経営計画を立て、努力し、目標を達成したときの充実感をぜひ味わってもらいたい」と研修会参加者に自覚を促しました。また「原点は継続せよ。仕組みは革新せよ。本質を進化させるために」という言葉を引用して基本を維持し、環境変化へ適合することが重要なことだと強調しました。

釧路オートリサイクルから参加した佐々木雅弥さんは、挨拶・整列試験の厳しさの中

から「号令をかける者、動く者



初日の理事長講話。経営者自らの「高い理想と一貫した志」が目標達成を実現する

の息が合わないとはばらばらになる。NGPが言う品質の統一化とはそこなんだ」と思ったそうです。暗記テストで苦しんだカンジ自動車商会の官野哲雄さんは支えてくれた仲間への感謝とともに「自分自身の研修会は今年やっとスタートラインに立ったばかり。これから自分自身を変え、NGPのメンバーのために何ができ、何をやらなくてはならないかを考える本当の研修が始まる」と研修終了後に身を引き締めていました。

第17回基礎研修会を開催84人の新人がNGPの仲間入り



試験合格には雨にも負けない集中力がものをいう

第17回基礎研修会が9月27～30日、東京・夢の島のBumB東京スポーツ文化館で実施されました。全国84名の新人が参加、

雨天の下での訓練・試験に取り組みました。


「NGP営業マン心得の『継続は力なり。断りに負けず訪問せよ!』の精神にのっとり、パーツを買ってくれるお客様、車の仕入先を増やします」(チスイ、澤達彦さん)。「お客様の立場になって、自分がどのような仕事をすればお客様に喜んでいただけるかを日々考えながら仕事をします」(オートパーツイワイ、大野敏絵さん)。「リーダー的存在になるため、常にキビキビした行動をとり、大きな声を出していきます」(茨城オー

トパーツ、小野瀬泰正さん)。「お客様あつての私達の会社。そして私や家庭、仲間との出会いがあることを肝に銘じ、少しでもお客様第一に近づけるよう努めます」(オートリサイクルナカシマ福岡、松村隆廣さん)。新鮮な決意が溢れます。



苦しさを乗り越えて気持ちひとつになった修了式

新規入会組合員紹介 北海道稚内市にNGPの新組合員が誕生しました

支部	会社名	代表者名	住所	電話番号	FAX番号	加入日
北海道	株式会社チスイ	代表取締役 野原 善紀	北海道稚内市声間1丁目11-4	0162-26-8151	0162-26-8161	20年8月31日
コメント	 <p>「このたびNGPに入会しました株式会社チスイです。自動車リサイクル業は未経験な部門です。不安は多くありますが、新しい部門の仕事を行なえるという楽しみも多くあります。今は一日も早くNGPオンライン登録をする事が目標です。9月9日に経営者研修会に行っただけです、そこでNGPの結束力の強さを見ました。私と同じく研修に来た人達は、研修の中で段々信頼感が強くなりました。経営者研修に来た仲間と補修部品業界のリーダーとして、これからも100年持続できるNGPにし、そして当社も売上目標に向けて頑張ります。皆様、これから株式会社チスイを宜しくお願い致します。」</p>					

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
中四国	岡崎車輛部品株式会社	会社代表	代表取締役 岡崎 晃	20年9月5日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201